

製品名: MYOZ2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14350**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	30kDa

抗原情報

遺伝子名	MYOZ2 C4orf5
別名	MYOZ2 C4orf5
遺伝子 ID	51778.0
SwissProt ID	Q9NPC6
免疫原	抗血清はヒト MYOZ2 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

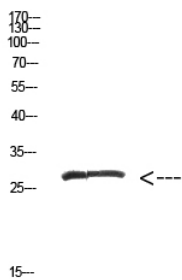
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、多様な細胞型におけるカルシウム依存性シグナル伝達に関与するホスファターゼで

あるカルシニューリンに結合するサルコメアタンパク質ファミリーに属します。これらのファミリーメンバーは、心筋細胞および骨格筋細胞のサルコメアのZ線でカルシニューリンを α アクチニンに繋ぎ止めるため、カルシニューリンシグナル伝達に重要です。この遺伝子の変異は、遺伝性心疾患である家族性肥大型心筋症 16型を引き起こします。[RefSeq 提供、2011年8月]、機能: ミオゼニン、 α アクチニン、 γ フィラミン、TCAP/テルトニン、LDB3/ZASPなどのZディスクタンパク質を結合し、カルシニューリンシグナル伝達をサルコメアに局在させる細胞内結合タンパク質として機能すると考えられます。カルシニューリンシグナル伝達の調節に重要な役割を果たします。筋原線維形成に関与する可能性がある。類似性: ミオゼニンファミリーに属する。細胞内局在: 心臓および骨格筋のZ線においてACTN1およびPPP3CAと共局在する。サブユニット: C末端を介してACTN2のスペクトリンリピート3および4と相互作用する。ATCN1、LDB3、MYOT、およびPPP3CAと相互作用する。組織特異性: 心臓および骨格筋に特異的に発現する。

研究分野

画像データ



500倍希釈の抗体を用いた hepg2細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000倍希釈した。